

令和6年度自己評価表

中長期目標	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する	今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立 【あいさつ 時間を守る 身だしなみを整える】 2 基礎学力の向上      3 ふるさとキャリア教育の推進 4 地域との連携と情報発信    5 業務改善の取組
-------	---	----------	---

年 度 当 初				評価結果 ( ) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>■頭髪服装指導に努めたが、指導にのらない生徒が一部いる</li> <li>■問題行動については、各学年・分掌と連携して指導・対応し前年度比30%減</li> <li>■遅刻者数は前年度比20%増。特定の生徒が多い</li> <li>■生徒会生徒を中心に挨拶運動を行ったが、「分離礼」「静止礼」の定着が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組んでいる</li> <li>■問題行動を繰り返す生徒が減少する</li> <li>■遅刻者数を前年度より10%減少する</li> <li>■「分離礼」「静止礼」を習慣化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「進路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身形を整えられるように粘り強く指導する</li> <li>■生活指導、遅刻指導については、全職員で共通理解し指導できる体制づくりをし、粘り強い指導を続ける</li> <li>■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する</li> </ul>			
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学年会や教科担当者会を通して、生徒情報を積極的に共有できている</li> <li>■全職員が連携し、要支援生徒に寄り添った支援を行うことができている</li> <li>■朝読書の達成率が全体では91.4%と目標(96%)には達しなかったが、昨年度(88.9%)より微増</li> <li>■境港市の協力や、各担任の創意工夫によって人権教育LHRの内容がより充実した</li> <li>■生徒会行事に生徒の意見を取り入れ、改革に着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、生徒に寄り添った指導ができている</li> <li>■朝読書の達成率96%</li> <li>■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりができる</li> <li>■部活動も含め生徒会活動が充実し、学校生活での満足度があがる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、生徒に寄り添った指導を心がける。いじめアンケートやハイパーQUの活用</li> <li>■読書喚起を引き続き行いながら、生徒の読書環境の充実に努める。</li> <li>■人権を配慮した生活面での援助や指導についても教職員の連携を図りながらいっそうの充実を図る</li> <li>■生徒の意見を取り入れながら、伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく</li> </ul>			
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切に、生徒が主体的に参加する授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎力診断テストの結果に微増ではある効果が表れている</li> <li>■ICT機器を活用したPBL(課題解決型学習)への取り組みが、少しずつではあるができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、マナトレや補習等を充実することにより、基礎学力が定着・向上している</li> <li>■ICT活用の校内研修や研究授業を実施し、授業力が向上する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努めるとともに、効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく</li> <li>■生徒一人一台端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する</li> <li>■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講する</li> </ul>			
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外部資源も活用し、地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている</li> <li>■4級海技士(航海)3名合格、1級小型船舶操縦士5名、スーパー水産農林業士1名取得</li> <li>■自動車整備士登録試験7名全員合格。5年連続合格率100%達成</li> <li>■第1種電気工事士7名合格、第2種電気工事士8名合格</li> <li>■福祉科介護福祉士国家資格13名合格(14名受験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■時代にマッチした専門教育を深化する</li> <li>■将来のスペシャリストが育成できている</li> <li>■資格・検定試験の合格率が向上</li> <li>■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果の発表が充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す</li> <li>■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させ、3年間での計画的な資格取得に取り組めるよう指導する</li> <li>■資格・検定試験に合格することで、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すよう取り組んでいく</li> </ul>			
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■就職指導、進学指導ともに、多様な生徒状況に対応し、長期にわたって個別の指導に取り組んでいる</li> <li>■キャリアパスポートは、内容を修正したが、改善すべき事項も残っており、検討が必要である</li> <li>■すべての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた</li> <li>■就職者の1次内定者が98%であった。学科の専門に関連した企業への就職88%、進学51%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■進路指導計画に基づいた指導の徹底</li> <li>■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導ができている</li> <li>■インターンシップにより職業観・勤労観が身につけている</li> <li>■進路ガイダンス、保護者説明会が充実している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒状況の多様化、社会情勢に対応した業種・職種研究を深める。進学についても入試の多様化・長期化に対応し、情報の共有や連携体制を強化する。</li> <li>■キャリアパスポートの記入形式を見直し、学習、実習、資格取得等と連動させるなど生徒も教員も活用しやすい形式を検討する</li> <li>■適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる</li> </ul>			
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実習製品の販売会は、延べ1400人の来場者があった。メルカリショップとの連携も株式会社きさらぎと共同で進めることにより本校の実習製品を全国にPR、販売することができている</li> <li>■総合技術フェアを地域に公開し昨年の1.89倍となる769名の来場者があった</li> <li>「学校の雰囲気が良い」92%→96%</li> <li>「将来職業に就いてから役に立つと思う」95%→96%</li> <li>「生徒の頭髪服装やマナーなどの指導が十分になされている」89%→92%</li> <li>■コロナ禍での経験不足や生徒意識の変化などから地域ボランティア活動に意欲的に取り組む生徒は減ってきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域連携・地域交流活動を通して、生徒が自信を持つとともに、経験値を上げ、役立ち感、有用感を得られている</li> <li>■地域基幹産業の発展に寄与できる人材が育成されている</li> <li>■地域と連携したボランティア活動・実習等ができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域や学校、各科生徒にとって学びの多いイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を継続的に行っていく</li> <li>■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う</li> <li>■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う</li> </ul>			
	学校教育活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公式SNS・学校webページにより、学校行事や各科の取り組みなど積極的に情報発信することにより、本校の教育活動について保護者や地域の理解を深められた</li> <li>■入学案内パンフレットに「卒業生からのメッセージ」も掲載し、卒業後の進路をより詳しく紹介できるようにした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解が深まっている</li> <li>■適切な情報発信により、志願者が増加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■方法や機会を工夫し、生徒・保護者・マスコミ等に対して的確な情報発信に努める。</li> <li>■令和6年度は「地域みらい留学」へ参加しネットだけでなく対面で県外の中学生へもPRする</li> </ul>			
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■校内情報共有DBなどを活用し、資料や情報を事前に配布、周知することにより、会議などの時間短縮に努めている。一方でDBの確認不足で、必要な連携や情報共有が不十分になることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会議・委員会の整理、統廃合など業務改善に取り組み、充実した教育活動ができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■協議、連絡・報告について、事前に関係との話し合いを密にし、必要な情報は自ら確認する</li> </ul>			
	長時間勤務者の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行っている</li> <li>■時間外勤務削減は、ほぼ目標を達成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■時間外業務を月45時間以内とする</li> <li>■時間外業務を年360時間以内とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う</li> <li>■業務内容を見直すとともに、時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める</li> </ul>			